

災害ボランティアセンター実践講座が行われました

10月6日、ふるさと総合センターで「災害ボランティアセンター立ち上げのための実践講座」(高知県ボランティア・NPOセンター主催)が開催されました。

この講座では、町内外から約80名の方々が参加(町内からは36名が参加)し、南海地震などの災害が発生したあと、被災地の人々の暮らしを守り、支えるために、個々の要望にあった柔軟で、きめ細やかな活動を行う『災害ボランティアセンター』の立ち上げや、運営に必要なことを模擬訓練



方式で実践的に学びました。まず始めに「なぜ災害ボランティア活動が必要か」ということを、過去の被災地での活動経験をもとにNPO高知市民会議の山崎水紀夫理事長より講演いただき、その後、参加者がそれぞれの役割に分かれ、セクタースタッフ役やボランティア役になって情報収集やボランティア受付など、センターの運営を体験しました。

現在、黒潮町でも災害ボランティアネットワーク会議を立ち上げ、社会福祉協議会を中心に、関係機関と連携してボランティアセンターの運営や体制づくりについて協議をしているところです。今世紀前半にも確実に発生すると言われている南海地震では町内だけでなく県内全域での被害が予想され、災害ボランティアの力を生かすためには、地元団体が黒潮町独自の災害ボランティアセンターを運営できる体制づくりが必要であり、この取り組みが一日も早い日常生活への復旧

方式で実践的に学びました。まず始めに「なぜ災害ボランティア活動が必要か」ということを、過去の被災地での活動経験をもとにNPO高知市民会議の山崎水紀夫理事長より講演いただき、その後、参加者がそれぞれの役割に分かれ、セクタースタッフ役やボランティア役になって情報収集やボランティア受付など、センターの運営を体験しました。



活動であると言われてい

今後の訓練においても、役場や各機関、そして住民の皆さんと連携して、情報を共有しながら、災害の被害を最小限に止めるよう地域全体で災害への対応力を高めていきたいと思います。

参加者の声

- ボランティアは過去の災害現場で実際に体験しているが、運営についての訓練は大変参考になった。
- これまでの訓練と違った内容だったので、被災地で何が必要かを身近に感じることができた。
- ボランティアの取り組み方への参考になり、ためになった。

秋の全国火災予防運動
 火のしまつ
 君がしなくて
 誰がする

11月9日(日)から15日(土)までの7日間は「火のしまつ君がしなくて誰がする」を全国統一の標語として、秋の全国火災予防運動を行います。

空気が乾燥し、火災が発生しやすいつい時季を迎えるに当たり、皆さんの火災予防への意識を高めることによつて、火災の発生を防止し、死傷者の発生を予防、財産の損失を防ぐことを目的としています。

皆さんも、住宅用火災警報器や消火器の設置・点検を行なっていただくとともに、火を取り扱う場合には、細心の注意をしてくださいますようお願いいたします。

「耐震診断」・「耐震改修」に関するトリプルメニュー

耐震診断や耐震改修を行う業者の営業活動に関する問い合わせが増えています。

トラブルを未然に防ぐため、次の点についてご注意ください。

○ 県や町が、耐震改修の設計や工事についての戸別訪問を特定の業者に依頼することはなく、訪問による営業活動は、あくまでも業者の自発的な行為です。

○ 耐震改修の補助金を受けられるためには、町の行う木造住宅耐震診断を受診したのち、高知県の登録設計事務所が改修設計を、登録工務店が改修工事を行う必要があります。

訪問による営業を受け、疑問を感じられた際は、次の窓口までお問い合わせください。

- 高知県土木部住宅課
 ☎ 088-823-9856
- 高知県住宅耐震相談センター
 ☎ 088-825-1240
- 本庁総務課 消防防災係
 ☎ 43-2112(直通)
- 佐賀総合支所 総務課 総務係
 ☎ 55-3113(直通)